

(法第10条第1項第7号関係「翌事業年度の事業計画書」)

平成23年度の事業計画書(案) 平成23年4月1日～平成24年3月31日まで

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

1 事業実施の方針

平成23年3月11日に発生した東日本大震災・福島原発事故は、東日本地域に甚大な被害をもたらしましたが、その後3月15日に発生した静岡県東部の地震(M6.4)と合わせ、本年度以降の会の活動も少なからず影響を受けることが予想されます。

本年度の夏期観測は、上記影響も受けて参加規模は昨年に比べ大幅な縮小が見込まれていますが、5年目を迎え研究の質を向上する観点から経費をできる限り最小限にする一方、7月11日から9月2日までの過去最長の54日間をかけて実施する計画です。研究案件は大気化学、高所医学、永久凍土、放射線などの継続事業のほかに、新規の分野を加え合計16件が予定されています。中でも原発事故の影響に対する長期の放射線測定は、社会的な要請も受けて学術的にも高い価値があると考えられます。

活動拠点となる富士山測候所及びその周辺においては、電線路等のインフラ設備の地震による損傷、落石などの可能性も懸念されています。開所に合わせた山頂総点検を実施するほか、山頂の危険区域には注意を促す標識を設置するなど、できる限り安全に配慮し事故の防止に努めます。

活動資金は、受託事業として新技術振興渡辺記念会調査研究「富士山頂における東アジア越境オキシダント監視システム構築に関する研究—通年観測への里程と国際ネットワークの増強・拡大—」(企画提案中)、助成事業として三井物産環境基金「地球大気環境保全に向けた富士山測候所の戦略的活用計画:『東アジア高所大気化学観測拠点』としての富士山測候所の再生」、カーボン・オフセット年賀寄附金配分事業「富士山測候所を温室効果ガス通年観測施設とするためのクリーンエネルギー使用・インフラ構築事業」、その他公募で採択された自主研究事業などにより確保します。5年にわたる独立行政法人海洋研究開発機構との共同研究の終了、助成額の縮小、受託業務の減少などでこれまでで最も厳しい環境下にあります。

これらの活動を実現するための山頂開所期間延長などに伴う運用経費の増については、研究者等のボランティア活動を始め、あらゆる面で徹底した経費節減により対応することとします。また、震災の影響で厳しさを増すことが想定される今後の助成金等の獲得活動については、次年度以降を見据えた中期的な取り組みが必要となります。

このような状況の中で、本年度は資金をかけずに新たな研究等の活動の芽を伸ばす努力を行う一方、広報活動にも力を入れて行くこととします。ホームページなどにより活動状況を適宜適切に情報発信するほか、観測5年目という節目の年にあたるため、過去5年間の研究成果を総括し、論文集、パンフレットの出版、成果報告会の開催などを通じて、“高所極地研究拠点”としての富士山測候所の有用性に対する幅広い理解を求めていきます。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の事業費の金額 (単位:千円)
(1) 科学的・学術的事业	ア. 観測研究の実施 富士山測候所における夏期観測は7/11～9/2までの54日間にわたり実施する。一部については前年に引き続き通年で観測を実施する。利用グループの内訳は、学術科学委員会で審査した研究15件、活用委員会で審査した活用1件及び助成事業2件である。	(A)7/11～9/2 (一部通年観測) (B) 富士山頂 (富士山測候所) (C) 延400名	(D)会員 (研究者等) (E)400名	19,669

	<p>個別事業は以下のとおりである。</p> <p>＜学術科学関係事業＞</p> <p>(1)富士山頂におけるエアロゾル粒子と雲凝結核の測定/三浦和彦(東京理科大学)</p> <p>(2)富士山を観測タワーとした大気中水銀の長距離輸送に係わる計測・動態・制御に関する研究/永淵修(滋賀県立大学)</p> <p>(3)同位体を用いた炭素系粒子の発生源分別/兼保直樹(産業技術総合研究所)</p> <p>(4)通年オキシダントデータの無線 LAN を用いた国際ネットワーク配信に関する研究(*)新技術振興渡辺記念会受託研究(企画提案中)/土器屋由紀子(NPO)</p> <p>(5)富士山頂における有機エアロゾルの組成に関する研究/河村公隆(北海道大学)</p> <p>(6)富士山頂での夏季のオゾン・一酸化炭素の特性/加藤俊吾(首都大学東京)</p> <p>(7)富士山体を利用した自由対流圏高度におけるエアロゾル-雲-降水相互用の観測大河内博(早稲田大学)</p> <p>(8)宇宙線被ばく線量評価の信頼性向上を目的とした富士山頂での放射線測定/保田浩志(放射線医学総合研究所)</p> <p>(9)富士山の永久凍土研究-水文学的および地形学的なアプローチ-/池田敦(筑波大学)</p> <p>(10)富士山頂における身体動揺の簡易測定の有用性について/井出里香(都立大塚病院)</p> <p>(11)高所滞在中の尿タンパク量とアンギオテンシン遺伝子型の関連/上小牧憲寛(国際医療福祉大学)</p> <p>(12)富士山頂短期滞在時の安静および運動時の脳血流心行動態に関する研究/浅野勝己(筑波大学名誉教授)</p> <p>(13)富士山頂における睡眠時の低酸素症に対する口腔内装置の効果/野口いづみ(鶴見大学)</p> <p>(14)富士山頂のヤマネ/杉山昌典(筑波大)</p> <p>(15)3次元雨量計の強風環境下における計測特性試験/松田益義(MTS雪氷研)</p> <p>＜活用関係事業＞</p> <p>(16)富士山旧測候所を活用した通信の可能性について/吉田智将(KDDI)</p> <p>＜助成事業＞</p> <p>(1)地球大気環境保全に向けた富士山測候所の戦略的活用計画:『東アジア高所大気化学観測拠点』としての富士山測候所の再生/畠山史郎(東京農工大学) (*)三井物産環境基金助成</p> <p>(2)富士山測候所を温室効果ガス通年観測施設とするためのクリーンエネルギー使用・インフラ構築事業/畠山史郎(東京農工大学) (*)カーボン・オフセット年賀寄附金配分事業</p>			
	<p>イ. 第5回成果報告会の実施</p> <p>5年目の節目の年にあたり、これまでの研究の集大成として開催する。5年間の利用で明らかになった問題点を含め総括し、今後の中期的な活用の方向性を模索する。実施に当たっては関係各方面に幅広く後援を仰ぐ。</p>	<p>(A)1/下旬 (B)未定 (東京都内) (C) 30名</p>	<p>(D)一般/ 会員 (E)150名</p>	

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の事業費の金額 (単位:千円)
(2) 総合的運用事業	ア. 安全管理への取り組み (1)開所前に富士山測候所及び周辺の安全総点検を実施するとともに、富士山測候所周辺の危険区域の立ち入り防止などの標識を設置し注意を喚起する。 (2)研究者に対しては「安全マニュアル」にもとづき徹底をはかるほか、新規参加者に対しては個別に事前説明を行う。 (3)開所に合わせ御殿場基地事務所を開設し研究者の安全円滑な登下山の支援にあたる。	(A)7/1～9/10 (B)富士山測候所(富士山頂)御殿場基地(御殿場市)東京事務所(東京都) (C)20名	(D)研究者等 (E)400名	3,230
	イ. インフラ(建屋・電源等)整備への取り組み (1)電気設備:地震災害による損傷が懸念されるが、通電に必要な修繕は最優先で実施する。 (2)建物設備:雨漏り等影響が大きい箇所についての修繕は最優先で実施する。3号庁舎インレットの設置、1号庁舎2F から3号庁舎への機器分散などの研究環境整備を予算上可能な範囲で実施する。	(A)7/1-9/10 (B)富士山測候所(富士山頂) (C)20名	(D)研究者等 (E)400名	
(3) 出版情報発信等広報事業	ア. HP コンテンツの充実化 (1)夏期観測期間中、山頂に設置したライブカメラの画像を HP に掲載し、大気観測のほか、NPO 活動の広報、安全登山に活用する。 (*)ライブカメラ設置については現状変更申請中	(A)6/1-3/31 (B) Web (C)10名	(D)不特定多数/会員 (E) —	770
	イ. 会報誌「芙蓉の新風」Vol.6 の発行 (1)観測5年目にあたり特集号として企画し、活動支援用ツールとしてパンフレットと合わせ活用する。	(A)1/1 (B)東京事務所 (C)15名	(D)会員/一般 (E)500名	
	ウ. パンフレットの制作 (1)富士山測候所を活用した研究内容を分かりやすく紹介する小冊子を制作し、会報誌と合わせ活動支援ツールなどとして活用する。	(A)1/下旬 (B)東京事務所 (C)30名	(D)一般/会員 (E)500名	
	エ. 第5回成果報告会用の Web サイトの構築、ポスターの制作、講演予稿集の発行 (1)第5回成果報告会の専用サイトを立ち上げる。 (2)第5回成果報告会のポスター、論文集を制作する。	(A)1/下旬 (B)東京大学 (C)5名	(D)会員/一般 (E)150名	
	オ. 講師派遣 (1)学校、地元自治体等の要請を受け出前講座を開催し会の活動に対する幅広い理解者の獲得を目指す。	(A)4/1-3/31 (B)地元自治体等 (C)10名	(D)一般 (E)50名	
(4) 環境教育事業	ア. 富士山学校科学講座・無料見学会等の開講 (1)従来の山頂で実施する富士山学校科学講座のほか、新たな試みとして富士山測候所と下界の中継先(小学校等)をインターネットで結び、子供向けの気象実験のライブ中継の試験・検証を行う。実験実施にあたっては他団体の協力も仰ぐ。 (2)富士山測候所無料見学会を実施する。	(A)7/11-9/2 (B)富士山頂(富士山測候所)/小学校等 (C)10名	(D)一般(小学生) (E)50名	200

平成23年度 特定非営利活動に係る事業会計収支予算(案)					
(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)					
					(単位:円)
特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会					
科 目	23年度予算 (a)	内訳		前年実績 (b)	差異額 (a)-(b)
		非収益事業	収益事業		
I 経常収入の部					
1 入会金・会費収入	2,000,000	2,000,000		2,236,000	-236,000
正会員会費収入	1,810,000	1,810,000		2,043,000	-233,000
賛助会員会費収入	190,000	190,000		193,000	-3,000
2 事業収入及び補助・助成金	28,319,500	25,679,500	2,640,000	29,633,511	-1,314,011
事業収入	10,779,500	10,779,500		20,035,654	-9,256,154
受託事業収入	2,640,000		2,640,000	4,850,000	-2,210,000
補助金収入	0				0
助成金収入	13,100,000	13,100,000		4,400,000	8,700,000
寄付金収入	300,000	300,000		347,857	-47,857
修繕積立取崩し益	1,500,000	1,500,000			1,500,000
3 その他収入	0			107,415	-107,415
その他事業収入	0			92,000	92,000
受取利息	0			15,415	15,415
経常収入合計	30,319,500	27,679,500	2,640,000	31,976,926	-1,657,426
II 経常支出の部					
1 事業費	23,869,026	21,550,026	2,319,000	25,350,641	-1,481,615
科学的・学術的事業	19,669,026	17,620,026	2,049,000	21,018,203	-1,349,177
総合的運用事業	3,230,000	3,230,000		3,612,322	-382,322
環境教育事業	200,000	200,000			200,000
広報活動事業費	700,000	500,000	200,000	664,616	35,384
その他事業	70,000		70,000	55,500	14,500
2 その他事業費	0		0	0	0
その他事業費	0		0	0	0
3 管理費	6,330,000	5,799,535	530,465	6,379,870	-49,870
事務局人件費	3,300,000	3,038,782	261,218	3,228,288	71,712
会議費	30,000	27,334	2,666	26,448	3,552
事務局運営費	3,000,000	2,733,419	266,581	3,125,134	-125,134
4 予備費				0	0
—					
経常支出合計	30,199,026	27,349,561	2,849,465	31,730,511	1,531,485
経常収支差額	120,474	329,939	-209,465	246,415	125,941
III その他正味財産増加の部	329,939	329,939		1,026,415	-696,476
当期収支差額	329,939	329,939		246,415	83,524
正味財産修正額	0			780,000	-780,000
IV その他正味財産減少の部	209,465	0	209,465	429,141	-219,676
固定資産除却損	0	0		429,141	-429,141
収益事業欠損額	209,465		209,465		209,465
当期正味財産増減額	120,474	329,939	-209,465	597,274	-476,800
前期繰越正味財産額	5,394,470	5,394,470		5,394,470	
収益事業繰越欠損額	-35,355		-35,355	-35,355	
次期繰越正味財産額	5,479,589	5,724,409	-244,820	5,956,389	476,800